



第99回 全国高校野球 岩手大会 第7日

きょう休養日

第99回全国高校野球選手権岩手大会第7日は13日、盛岡市の県営球場など3球場で3回戦8試合が行われ、第2シード久慈、第3シード大船渡東など16強が出そろった。花北青雲は延長十回、2-1で遠野にサヨナラ勝ちし、5年ぶりの4回戦進出。久慈は5-0で千厩を完封し、大船渡東は同地区の高田を7-3で退けた。黒沢尻工、宮古のシード勢も3回戦を突破した。花巻北は盛岡一との古豪対決をコールドで制し、15年ぶりにベスト16入りを果たした。大東は7-1で岩谷堂に快勝し、盛岡三は七回コールドで岩手を退けた。休養日の14日は試合がなく、15日から熱戦を再開。県営、花巻の2球場で4回戦4試合が行われる。

花北青雲 十回サヨナラ

遠野、好機生かせず

大会直前にヘルニアが再発し、ベンチ入りできなかった佐藤陽前主将(3年)が見守る前でつかんだ2勝目。花北青雲が5年ぶりのベスト16入りを決めた。盛岡誠校との初戦に勝った10日に佐藤は手術を終え、この日は球場に駆け付けた。

「もう一度勝てよ」。佐藤から掛けられた言葉を力に変えた。延長十回2死二、三塁。6番泉沢隆弥(同)は六回と八回にも同じ状況で打席が回り、2度とも好機をつぶしていた。スタンドから佐藤の声がはっきりと聞こえる。「大丈夫だ、落ち着け」。安心して打席に入り、直球を捉えた。快音を残して打球は中前へ。劇的なサヨナラ打となった。

「陽ともう一度野球をするためには甲子園に行くしかない」。選手たちの頭にあるのはその思いだけだ。主戦瀬川悠維(るい、3年)は八回から登板。先頭打者にいきなり安打を浴びるも、鋭いスライターを駆使して3アウト目は三振でびしやり。九回、十回はいずれも三者凡退に打ち取り、サヨナラ勝ちへの流れをつくった。

8強を懸けて挑む次の相手は、春の県大会初戦で敗れた第2シード久慈。「リベンジする時がきた」と泉沢。まだ負けるわけにはいかない。(八重畑)

欠場前主将へ届けた2勝目



遠野―花北青雲 延長10回裏 花北青雲2死二、三塁サヨナラの中前打を放った泉沢(右)が仲間を迎えられる。花巻

【県営】
▽3回戦
久慈5-0千厩
黒沢尻7-0福岡
大船渡7-3高田

【花巻】
花北青雲2-1遠野
宮古7-1一関工
花巻北11-1盛岡一
盛岡三8-1岩手

【花巻】
▽3回戦

速野 000 001 000
001 000 000
花北青雲

0 | 1
1x | 2

(延長十回)
(速) 畑山、小嶋、菅田―三宅
(花) 工藤、佐々木、瀬川悠一渡辺
曰及川(花)

【評】花北青雲が延長十回サヨナラ勝ちした。この回、2四球と犠打などで2死二、三塁とし、泉沢が中前打を放った。三回は2死一塁から及川の右翼線二塁打で先制。3投手の継投で1点だけに抑えた。

遠野は六回2死二、三塁から三宅の中前打で追い付いた。八回1死二塁の好機を逃し、延長で競り負けた。

▼あと一本「気持ちの差」 遠野は4度得点圏に走者を進めたが、ホームに返したのは1度だけ。あと一本が出ず、延長で力尽きた。

二回は1死一、三塁で併殺、四回2死二、三塁は三振で逸した。八回は先頭の藤原俊明(3年)が左前打で出塁。犠打で1死二塁の好機をつくったが、花北青雲の主戦瀬川悠維(るい、同)の鋭い変化球で後続が打ち取られた。荻野貴士主将(同)は「最後は相手との気持ちの差」と唇をかんだ。

遠野・菅田輝樹投手(3年)
1年生の時から課題だった制球が乱れ、最後は球が甘くなって外野に運ばれた。エースとして自分が抑えなければいけないと思って投げたが、チームのみんなに申し訳ない。

◎岩手日報◎
高校野球速報

岩手日報モバイル(有料携帯サイト)で全試合をインク速報します。先発メンバーもお知らせします。



第99回全国高校野球選手権大会